

## 第2回常滑市地域公共交通協議会

### 1 開催結果

日 時 2022年9月14日(木) 9時45分～11時45分

場 所 常滑市役所 3階委員会室

出席委員 別添出席委員名簿を参照

### 2 議事概要

#### (1) 報告事項

##### ① 委員の交代について

- ・ 6月23日の第1回交通協議会以降、委員の所属先の人事異動等にもとない2名が交代したことを報告。

##### ② 地域公共交通計画策定支援業務委託事業者の決定について

- ・ 公募型プロポーザル方式により日本工営都市空間（株）に決定したことを報告。

##### ③ コミュニティバス(旧「(仮称)ボートレースファンバス」)の運行開始について

- ・ 10月1日から運行を開始するコミュニティバスの詳細について報告。

#### 【質疑応答】

Q. ボートレースにちなみ6色の車両が走るが、車両カラーと運行路線は一致しないのか。  
(事務局(開催運営課))

車両の充電時間の確保が必要であり、一つの車両が色々な路線を運行することで、走行距離と充電時間帯を調整する。同じカラーのバスが同一の路線をずっと運行するわけではない。

⇒**要望** 利用者が混乱しないよう、車両のカラーと路線が決まっているわけではない、ということを周知されたい。

Q. これだけの路線を無料で運行すると、民営バスやタクシーへの影響が小さくない。今後交通計画を策定し、鉄道、バス、タクシーが役割分担をしながらやっていくことになるが、いつまで無料で運行する考えか。

(事務局(開催運営課))

ボートレース場のファンバスという位置付けもあり、無料で運行をスタートする。今後は利用状況などを踏まえて、交通協議会での議論を踏まえて、より良いものにしたい。

有料にする場合には、当然、利用者離れが想定されるので、サービスや利便性の向上とセットでの検討をしたい。

(ボートレース事業局 山口委員)

「今年度は無料」という点は確定。その先については、協議会の議論を踏まえていく。

(知多乗合 金森委員)

有料化には、車両の登録替え、運賃箱の設置、路線認可などの手続きが必要。周知期間を含めると、遅くとも3か月前くらいには方針決定が必要。

⇒**要望** 「今年度まで」ということであるなら、利用者には早期に周知されたい。

Q. 北部バス・知多バスからコミュニティバスへの置換えに関して、市民からの問合せ状況は如何。また、名称の変更について、啓蒙啓発などの施策はあるか。

(事務局(市民協働課))

今回の置換えは、殆どが既存の北部バス、知多バスと同じ位置にバス停を設けるため、バス停の看板が変わる以外に大きな変更はない。

一部、バス停の場所が移るところは、個別に移転後の位置を案内している。

⇒**要望** パンフレットの配布だけでは、従来のバスが「置換わった」ということが十分伝わっていない懸念がある。改めて、バス置換えの背景やバス停の変更などの情報発信を徹底されたい。

Q. ボートレースの事業の一環として、そこにコミュニティバスの要素を付加したものであり、ボートレース施設のバスという理解でよいか。

(事務局(開催運営課))

事業主体はボートレース事業局。ファンを運ぶだけでなく、地域貢献の一環として、レース場に来てもらう、日常生活の足としても活用してもらうもの。

ボートレースとこなめには、子ども向け施設や誰でも健康増進ができるという施設もあり、多くの人に足を運んでもらいたい。

Q. 運行にかかる委託費は市の一般会計からか、ボートレース事業の企業会計からか

(事務局(開催運営課))

ボートレース事業の企業会計で負担する。

(ボートレース事業局 山口委員)

ボートレース事業といえども、市の組織の一部であり、最終的な責任の所在は市になる。

Q. 地域公共交通計画を策定していく中で、民営バスとコミュニティバスのそれぞれの目的、役割を明確にすることが必要。法改正で計画と補助が連動化したため、国の補助対象になっている半田・常滑線も計画への位置付けが必要なので、そういう点も踏まえて計画を策定されたい。

(事務局(企画課))

協議会に同席していただいている半田市とも連携して取組みたい。

今回、半田・常滑線は引き続き知多バスの地域間幹線として継続する。また、半田病院の移転があるが、そのタイミングで地域全体の公共交通ネットワークが変わることも想定される。ご指摘の点と合わせて、計画に位置付けていきたい。

Q. コミュニティバスの運行委託は、今後別の事業者が変わることはあるか。

(事務局(開催運営課))

地元の乗合運送事業者であることから、今回は知多乗合に委託する。

今後については、路線や運行形態の見直しとも関わってくるため、現時点で今後の運行委託について決まっていることはない。

### 補足

知多バス路線を転換すること、有料運行の可能性も検討していたことから、今回は乗合運送事業者である知多乗合に委託している。

⇒要望 タクシー事業への影響について検討がないまま、運行がスタートしてしまった。無料ということも市民に認知が広まっている。タクシー事業者は新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、事業への影響を懸念している部分がある。

Q. 地域公共交通計画では、住民の方がどのようなことに困り、どのような輸送手段を必要としているかということに目を向けてもらいたい。

(事務局(企画課))

今後、計画策定の中では、各交通モードの役割分担を明確にしていく。その際には、交通事業者の皆様へのヒアリングも検討している。

Q. 一般的にコミュニティバスは、市民・利用者の意見・要望を汲み取って運行を始めるもの。今回は知多バス路線の転換であり、そうした点が不十分だった面がある。今後は交通協議会の意見などを参考に見直すところがあるが、市民・利用者の意見を反映させることが一番重要なので、積極的に意見をくみ取って利用しやすい運行になるよう努められたい。

(事務局(企画課))

計画策定の中で、様々なご意見をいただいていく。また、周辺の市町ともネットワークとして取組んでいく。交通協議会でもぜひご意見をいただきたい。

Q. 市民も、観光も、という形で運行するが、2つの目的を一つに協議するのは難しいのではないか。買い物弱者と言われる人たちは鬼崎地区の旧道沿いに多くおり、コミュニティバスの路線から外れている。きめ細やかな交通手段があっても必要ではないか。

(事務局(企画課))

今後の調査の中で、どのようなエリアに高齢者などがお住まいか見えてくるのではないか。ラストワンマイルなどの課題ごとにそった交通モードを用意することも必要と考えており、必ずしも1つの手段(=バス)だけで地域の足を維持する考えではない。

(大同大学 嶋田座長)

フレイル層などの短距離のトリップ、「小さな交通」をどうするかは、公共交通とは別立てて検討する必要があると思っている。ちょっとした移動に困っている人が多く、各地で課題になっている。

⇒**要望** 鉄道・バスから先の交通空白地域に、どのように移動手段を確保するか。鉄道、バス、タクシーと段階的な交通手段がある。現在、バス路線への補助があるが、地域の足を確保するためであれば、例えばタクシーへの補助であっても良いだろう。交通空白地帯で困っている人にどのような輸送手段が提供できるか、という点で議論ができれば良い。

## 2 協議事項

### (1) 常滑市地域公共交通計画の骨子(素案)について

- ・常滑市地域公共交通計画の構成や記載項目などの骨子（素案）について説明。
- ・事務局から、計画の根幹となる計画区域、計画期間の素案及び計画の構成の素案を提示し、協議。

#### 【質疑応答】

Q. 空港島に延べ1万人が勤務するが、そこへの調査が不足しているように感じる。また、海外からの来訪客が地域を巡る観光とは、どのような点で連携するか。

(事務局(企画課))

延べ1万人の通勤は、地域公共交通全体の中で非常に大きなボリュームと考えている。

訪日観光客は、新型コロナウイルス感染症の推移や入国者数などを踏まえながら、ホテル宿泊者への調査とセットでどこまで取り入れていけるか、今後検討したい。

Q. 空港利用者の web アンケートはどのように実施する予定か

(支援業者 日本工営都市空間)

ホテル宿泊者はフロントでQRコード付きのチラシを配布することを想定。どのホテルにご協力いただくかは、今後ホテルと調整が必要になる。質問項目は、常滑市を「通過」ではなく「立ち寄る」施策の検討に関連する設問を検討する。実施時期は現時点で、11月頃を予定している。

⇒**要望** 駅での調査に中部国際空港駅も加えてはどうか。

⇒**要望** ホテルの宿泊者は、空港から出発する利用者も多くいる可能性があるため、この地域を訪れる人かどうかをしっかりと把握する方法を検討してはどうか。

Q. 計画策定の背景・目的を設定しないまま、手法の話になっている。観光、福祉など複合的な問題をはらんでいる中、背景・目的をきちんと議論する必要があるのではないか。

Q. 「空港島を含む」常滑市全域とあるが、空港島と関連する施策が既に決まっているのか。

(事務局(企画課))

1 点目

地域公共交通計画自体、福祉、住民生活、観光などの移動に対して、公共交通を活性化、再生し維持する、という法令の趣旨がある。そのため、背景・目的としてはある程度法の趣旨に則っていくことになると考えている。今回は説明が不足しており反省している。

2 点目

空港島は基本的に住民がおらず、市の施策全般で特殊と捉えられるが、多くの人が働く場や観光の起点となっており、当然計画の対象区域と考えている。

空港島も含めて全部が常滑市である、ということを明確にし、対象区域が市街地だけでないことを明確にするための表現。関連施策などを予定しているわけではない。

⇒**要望** 法的なものはあるかと思うが、地域特性などで状況は様々である。法の趣旨を受けた上で、市として計画策定に至った背景や目的や、地域の状況などを一段階踏まえたい。

Q. 常滑市の地域特性として、地域ワークショップを4中学校のほか、空港島の従業員を対象にしたワークショップがあってもよいのではないか。

(事務局(企画課))

1万人という数字は相当な規模。空港会社との調整も必要だが、検討していきたい。

Q. 公共交通利用者の調査はいわゆるPT調査(※)か。

※ PT(パーソン・トリップ)調査

都市における人の移動に着目した調査。世帯や個人属性に関する情報と移動をセットで尋ねることで、「どのような人が、どのような目的で、どこからどこへ、どのような時間帯に、どのような交通手段で」移動しているか把握することができる。

(日本工営都市空間)

お見込のとおり。コロナ禍ということもあり、アンケート形式を想定している。

Q. 公共交通計画を実行していく段階になると、利用促進の取組みがよくみられる。利用促進は、利用していない人に利用してもらう取組みだが、いま公共交通を利用していない人の動向やデータはどのように把握していくか。

(日本工営都市空間)

利用していない人は、市民アンケート調査で把握したい。

アンケートで公共交通の利用状況も聞き、利用の有無によってクロス集計することで分析できると考えている。

Q. 国は交通施策へのビッグデータの活用を言っているが、その点についてはどうか。

(日本工営都市空間)

KDDIの携帯位置情報のデータを持っているので、移動のデータ分析は可能であり、実施する予定。

Q. 空港島内に延べ1万人の人が働いているということだが、知多バス・貨物地区循環路線の利用状況と乖離があるように感じる。なぜ利用しないのか、掘り下げてもらえれば。また、利用者調査は駅での配布に加え、バス・タクシーでも配布を検討してもらいたい。

(日本工営都市空間)

バス・タクシーでのアンケート実施は、事業者との調整次第。

web アンケートも実施するので、市のHPなどにリンクをはるなど、調査日以外や配布する駅以外の利用者についても、把握していきたい。

(大同大学 嶋田座長)

携帯位置情報のデータでは、属性はわかっても、移動する理由や公共交通を利用しない理由はわからないので、ぜひお願いしたい。

Q. 今回の協議会ののち、アンケートを開始していくのか。

(事務局(企画課))

コミュニティバスの運行が始まって、ある程度経過した11月頃から始めたいと考えている。市民や利用者に直接実施するアンケートは、実施までそれほどかからないと考えているが、事業者を介して実施するものは調整が必要。

⇒**要望** 計画策定の背景・目的がはっきりしない中で、調査だけ先行して実施することに違和感がある。設定したうえで、合致する調査内容か検証が必要だと思う。

(事務局(企画課))

交通協議会で委員を参集するのは難しいかもしれないが、ご指摘を踏まえ、一度持ち帰って検討させていただく。

⇒**要望** アンケートはバス用、タクシー用など、それぞれの絞ったアンケートも良いと思う。アンケートの内容は、色々な意見を踏まえていただきたい。

Q. 今回の資料のスケジュールでは、2022年度、23年度に策定と示されているだけで、細かい工程の記載がないが、どのような予定か。

(事務局(企画課))

今回は、あくまで総合計画と対比するものとして掲載。細かな工程は調整次第お示しする。

## 【採決】

### ① 計画骨子の素案

**原案(計画書の記載項目や構成などにかかる案)を承認**

※ 今後の協議内容によっては、記載順序の入れ替えや項目の追加をする場合があります

### ② 計画に記載する事項(一部)の素案

**原案を承認**

以上